

目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第43号 2009年 6月

発行人：八幡和太郎 編集長：服部 尚彦 事務局長：吉田 博行
事務局：〒153-0053 目黒区五本木2-47-5 Tel 03-3713-2096

目黒稲門会 創立10周年記念総会のご案内

第10回目黒稲門会定時総会(目黒稲門会創立10周年記念総会)を来る7月12日(日)に下記の通り開催いたします。

総会は、記念総会でもありますので、先ず会長挨拶、ご来賓の方々の祝辞を頂戴します。続いて例年の通り、前年度の事業報告、決算並びに監査報告、役員改選と新役員の選出、平成21年度事業計画と予算案等重要事項の審議を予定しております。

第2部の懇親会は、毎年回を重ねる毎に盛り上がり、親睦の輪が広がっておりますが、今回は更なる盛り上がりを期し、早大マンドリン楽部37年OBによるマンドリン演奏、会員によるカクテル実演サービス及び会員による各種作品のパネル展示等々を見て、聴いて、味わってのお楽しみが盛り沢山企画されております。

つきましては、会員ならびにご家族の皆様には、本記念総会に積極的に参加され楽しんで頂けますようご案内旁々お願い申し上げます。

なお、総会は7月初旬の暑くて鬱陶しい時季ですので、クールビズの軽装でご参加下さいます様お願い致します。

記

日時： 2009年7月12日(日)

受付開始 15時30分

総会・懇親会 16時～19時30分(予定)

会場： こまばエミナース

目黒区大橋 2-19-5

電話 03-3485-1411(代表)

交通： 井の頭線 駒場東大前駅下車

下北沢駅寄り改札口から徒歩7分

会費： 8,000円(同伴家族 5,000円)

当日会場受け付けにてお支払い下さい

なお、予約の関係で当日キャンセルの方は、会費をご負担願います。

送迎： 会場までの送迎バスを運行致しますのでご利用下さい。

①JR目黒駅付近 15時10分発

(目黒通りみずは銀行前付近)

②東横線中目黒駅付近 15時20分発

(駅前の山手通りツタヤ前付近)

★ 会報同封の返信ハガキを来る6月19日(金)までにご返送下さい。なお、送迎バスを利用される方は乗車予定場所(①または②)を明記して下さい。

(島田 記)

第10回総会記念企画《展示会へ出展を》

目黒稲門会は本年7月12日(日)第10回総会を開催致します。この節目の記念総会を成功させ目黒稲門会ここにありと存在感を示したいと願っています。

平成11年1月に産声を上げた本会は23区支部内でも後発です。しかし23区支部の初代会長区としての重責も果し、眞仁田初代会長、加藤第2代会長、そして八幡現会長と受け継いだ精神と行動力は母校からまた他地区稲門会から注目されるようになりつつあります。それは偏に会員の皆様のご理解、ご協力それに強い団結力の成果であると存じます。

第10回の総会では、目黒稲門会に登録されている11の部会活動、また多様な趣味をお持ちの会員皆様の日頃の活動をご披露する展示会を開催致します。この展示会を通して、部会への参加者の拡大、そして新しい部会を立ち上げる機運が高まる事を強く願います。

絵画、写真、書、俳句、短歌、焼物その他趣味の世界であればなんでも結構です。多くの皆様の出展を頂き、第10回総会を盛り上げて頂きたくお願い申し上げます。

出展方法につきましては、本会報の8ページに掲載致しておりますのでご参加をお待ちしております。

第10回総会実行委員会

各部会からの案内・報告

囲碁部会

女流棋士誕生

オール早稲田囲碁祭で交流のある早稲田大学4年生(教育)で囲碁会の下坂美織さんがプロ棋士になった。平成21年度女流特別枠採用試験を6勝1敗で1位通過し、4月からプロデビューすることになった。高校選手権、全日本女流選手権で活躍されたが院生を経ずに外来で入段を果たした。

4月18日に大隈記念タワーで大勢の先輩、現役に囲まれて下坂美織初段誕生祝賀会が開催された。今後の活躍を心から期待したい。

また、平成20年度高校女子選手権を優勝した藤田光彩絵(社会科学)さんが入学した。これで青葉かおり4段、下坂美織初段、藤田光彩絵さんと高校女子選手権者が揃った事となった。

囲碁部会長 保井 正



下坂美織祝賀会(青葉かおり:中、下坂美織:左)

麻雀部会

(1) 副部会長の選任

年初から鶴野会員(昭和39商卒)が副部会長に選任され活動を開始しております。(昨年末の麻雀部会忘年会において選任され、新年の目黒稲門会幹事会にて了承されました)

(2) 定例麻雀大会

2月15日(日)、武蔵小山の麻雀クラブ「サン」に於いて本年初の第37回定例麻雀大会が開催されました。今回は松戸相談役と嶋田氏の2名が初参加され、和気藹々の半チャン4ゲームの結果、優勝は松尾副会長、準優勝は松戸相談役、三位は土方初代部会長の面々でした。

(3) 今後の大会予定

次回の目黒稲門会の定例麻雀大会は6月28日(日)、また三区(目黒・渋谷・世田谷)連合親善麻雀大会は8月22日(土)を夫々開催予定しております。皆様奮ってご参加ください。

麻雀部会長 松尾洋一

美術・歴史鑑賞部会

第23回美術・歴史鑑賞部会のご報告

バスで行く真鶴(中川一政美術館)を楽しむ会は3月26日無事終了しました。肌寒い、小雪がパラパラと降った朝でしたが、8時30分に目黒駅前を出発。途中、都立大学、八雲三丁目交差点と立ち寄り、参加者25名遅刻も無く乗車されました。バスの中で八幡会長から「中川一政と早稲田のエピソード」をお聞きしながら10時40分頃には暖かく天気も良くなった真鶴の「中川一政美術館」に到着。入り口前で全員記念写真を撮り、学芸員のお話を聴き、約1時間鑑賞。

真鶴岬の「三ツ石」を見て、12時30分に海鮮魚村「いずみ」に到着。料理は「刺身定食」プラス「金目煮付け」でした。帰りの高速道路も空いていたので4時過ぎには目黒駅に無事到着。楽しい1日でした。

美術・歴史鑑賞部会長 後藤克彦



ゴルフ部会

4月24日に第24回ゴルフ会を栃木県の栃木が丘ゴルフ倶楽部に於いて行いました。

快晴の下、25名参加による和気藹々の競技の結果、優勝は牧野武夫氏、準優勝は松戸猛氏、3位は佐藤祥枝氏でした。プレーの後、24名が都立大学のあっぱれで開かれた賑やかな反省会に参加し、次回のゴルフ会の日取りが、10月23日(金)に決まりました。

ゴルフ部会副会長 大杉邦雄



俳句部会

4月度の「俳句入門教室」並びに「萩句会」は講師の都合で第二金曜の4月10日に開催。

今年の1月から始まった「俳句入門教室」も早くも4回目を迎え、いよいよ実作発表の段階に入った。各自3ヶ月間基礎をしっかりと学習されたので、提出された宿題を見事にこなし、さすが稲門会メンバーの皆さんと感嘆しきり。

引き続き15時より「萩句会」を開催。句会終了後は場所を移して俳句論に華が咲いた。

各自3句投句中より自選1句を下記に掲載。(順不同)

今年また万葉の桜目黒川	安藤虎雄
万象の動きて池の水温む	梶恵作
水ぬるむ笑顔でかがみ菜を洗ふ	川井素山
濠ひかり水ぬるむなり熊本城	桑野祐峰
庭の木も折れんばかりの春疾風	紀本直幸
水温む背に陽を浴びて庭仕事	保井寶正
春寒や空地となりし友の家	米田文彦
伊豆大島辛夷を透きて幽かなり	佐藤喜仙

話変わりますが、開設間もない「俳句部会」に非常に嬉しい出来事がありましたのでご紹介いたします。教室と句会のメンバーである「紀本直幸」氏が日経俳壇の「茨木和生選」に「命延ばすための熱さぞ寒やいと」の句を投句したところ、入選10句の巻頭に選ばれ、下記の評を得ました。

「紀本直幸さんの句。灸点の上にもぐさを置いて受ける灸は熱いが、それが命を延ばしてくれるというから耐える。寒の灸がよく効くというのは心理的效果も期待してのもの」新聞の俳壇には1年間投句を続けても入選しないという方が多い中、投句2回目で巻頭入選はまさに快挙です。本当におめでとうございました。

なお、選者の「茨木和生」氏は1939年現大和郡山市生まれ。師系は「右城暮石」後に「山口誓子」。現在俳誌「運河」主宰。2001年、第7句集「往馬」により第41回俳人協会賞を受賞。作風は生まれ育った土地、訪れた土地の禽獣虫魚、山川草木、さらに地霊との交換のうちにそこに一つのパラダイス(楽園)を生ましめるというもの。(三省堂版現代俳句大辞典より)

俳句部会長 佐藤喜孝

<広報編集委員会速報！>

紀本氏に続き、今回また大快挙となる朗報です。俳句部会長佐藤氏の俳句が読売新聞の詩歌コラム「四季」に取り上げられました。写真入りで長谷川權氏(古志主催)の解説がついております。

2009年5月11日掲載(朝刊第2面)



山古志の復興願ひ牛角力 佐藤喜仙
最近出版された佐藤氏の句集「壁炉」の一句です。
(本件は梶 恵作さんのご連絡で掲載出来ました)

目黒稲門若手会

月島もんじゃ会、目黒川花見会報告

3月28日、桜が咲き始めたばかりの目黒川を散策し、一次会・二次会あわせて10名参加(家族、友人を含む)で楽しい会になりました。目黒川沿いでは、道端で即興のバイオリン演奏があったり、屋台が出たりと、早くも賑やかで、春の良い日となりました。

さらに、4月2日には若手オープン花見会も開催され、春宵一刻を目で酔い、辿り着いた店で体で酔い、心地よい時間を過ごしました。

週って、2月28日には月島で若手5名、総勢16名の目黒部隊が話題ではあったが、初経験のもんじゃ焼き本場の味と手さばきに興味津々でチャレンジしました。大勢が皆で料理をしながらワイワイと賑やかな会でした。

今後も新しい企画の下に若手会を開催いたしますので、今回ご参加頂けなかった方も、またの機会にぜひお越し下さい。

目黒稲門若手会幹事 石川智子



カラオケ部会

会員の要望にお応えして、毎月第2金曜日に開催しています。曲目も多種多様、臨場感溢れるスクリーンで好評です。時刻も平日の夕刻となったことで参加しやすくなりました。

5月のカラオケ部会は休会にしますが、第89回は6月12日(金)に開催致します。

カラオケ副部会長 田畑 繁

ウォーキング部会

春の「鎌倉花遍路」は2月28日、当部会最多の参加者19名で梅の香を求めて北鎌倉東慶寺から瑞泉寺に至る梅の名勝所を1万1千5百歩をかけて散策しました。3月28日の京急馬堀海岸から観音崎に至る桜吹雪期待の花見は、寒暖急変の連続のため、満喫できませんでした。1万1千歩12名でのウォーキングでした。



<今後の活動予定>

第29回 5月26日(火)

一由比ヶ浜から長谷、極楽寺、稲村ヶ崎への
新緑を求めて一

鎌倉駅西口(13時集合)一鎌倉大谷記念美術館一鎌倉文学館・バラ園一高德院(鎌倉大仏)一長谷寺一成就院一日蓮袈裟掛松碑一新田義貞の碑一稲村ヶ崎駅一腰越駅(希望者は腰越港前舟宿での夕宴へ)
(鎌倉大谷記念美術館ではデュフィーなどエコール・ド・パリの作品や横山大観、小林古径、前田青邨など日本近代美術の巨匠の名作を鑑賞)

第30回記念 6月17～18日 1泊2日

一初夏の涼感溢れる滝、蜜柑の花、夕暮の蛍狩りと
花の町河津でのいって湯とバラの花巡り一

[1日目] 6月17日(水) J R湯河原駅(正午集合)
駅前にて昼食一不動滝一光風荘(二・二六事件現場・資料館)一万葉公園(希望者は足湯)一万葉荘(財・神奈川産業振興センター直営)泊一夕方・蛍狩り

[2日目] 6月18日(木)

(Aコース) 河津バラといで湯

湯河原駅一伊豆急河津駅一河津バガテル公園(パリ・バガテル公園姉妹園、バラ1,100種、6,000株)
一踊り子温泉会館一峰温泉公園(吹き上げ温泉)一伊豆急河津駅

(Bコース) 河津バラを見学しない方

万葉荘(陶芸教室・約2時間、自由参加)一西村京太郎美術館一湯河原駅

☆宿泊先の団体申込メ切が1ヵ月前になっている
為、仮予約をしてあります。参加希望者の第一次
申込メ切は5月13日(水)としますが、本会報を
見て申込む方は追加交渉いたしますので、至急

桑野までご連絡下さい。計画書をお渡しします。
☆尚、今回は相模原校友会ウォーキング同好会も特別参加予定。

第31回 7月14日(火)

一油壺・諸磯から三崎へ、変化にとんだ海岸線と
歴史を探访一

京急三崎口駅(13時集合)一油壺一諸磯湾一諸磯神社一本瑞寺一市役所前一京急三崎口駅

ウォーキング部会長 桑野祐光

会員の広場

『小さな古時計』

石川智子(平成7年 文)

6月10日は「時の記念日」というのをご存知ですか? 日本で最初の時計は、天智天皇の水時計であることが「日本書紀」に記されており、この時計が鐘を打った日が6月10日であることから、時間の大切さをかみしめる日として制定されたのだそうです。

そして、このささやかな記念日は、私の父の誕生日でもあります。父が亡くなってからも、我が家では命日に冥福を祈るように、誕生日には父がこの世に生まれたことを祝います。

父は目黒区祐天寺に育ち、目黒区立第二中学、都立目黒高校を経て法政大学で電子工学を学びました。勤務先や実家の会社で基礎技術を習得した後は、昔からの夢だった医療機器開発の職を得て循環器を専門とし、仕事は生涯を通じて楽しかったようです。宝物のように家族を大事にしてくれた父でしたが、長い間、家族の課題の一つは、父が煙草をやめないことでした。

4つ年下の弟と私は、習慣革命には相当の覚悟が必要ということを理解できる年齢になると、中長期計画を練って父の喫煙習慣根絶のため、あの手この手で共同戦線を張ったものです。我が家のそんな禁煙大作戦にも、いつか情性が忍びより諦めかけた頃、カミカゼは吹きました。折からの欧米禁煙ブームにのった外資系の父の会社で、ビジネスマンたるもの即座に禁煙すべし、自己管理のできない者は管理職から外すという(少々理不尽な)お達しが出たのです。仕事のため健康のため、ひいては家族を守るため、さすがの父も禁煙を決意し、家族も驚く程きっちりやり遂げました。

禁煙5周年を記念して、社会人になった私が、父に贈った一番大きなプレゼントが、腕時計です。

母が会社勤めをして親に贈ったのがROLEXの腕時計だと自慢するので、私もいつか父に腕時計を贈りたかったというのもありましたし、技術屋の父が、とにかくカメラや時計といった機械ものが好きだったというのもありました。

数ある腕時計の中で父が選んだのは、シチズンの時計、その名も「ザ・シチズン」です。世界最高峰の精度を誇る、年間誤差±5秒という圧倒的な正確さ。10年間の無料保証、生涯修理対応という行き届いたサービス。それを支えるのは、確固とした技術と、製品への揺るぎない自信であり、作り手としての誇りや誠意、愛情すら感じ取れます。飾り気のない、見やすいデザインには、だからこそ生まれるシンプルな美しさがありました。

こうした全てが、父は甚く気に入ったようです。とても喜んでくれて、大事に使ってくれていました。それからわずか数年の時を刻んで、腕時計は主を亡くしました。プレゼントした時には、わずかな時間しか残っていないとは知る由もありません。



カチカチと新しい音を立てる時計を、家族みんなで珍しそうに囲み、いつもと同じ和やかな団らんの時間を、その大切さに気付くこともなく過ごしました。父と家族が過ごした時間の象徴のように、この「小さな古時計」は、今も変わらずリビングの書棚にあります。

6月10日は「時の記念日」。時間の大切さをかみしめる日として、今年も、また来年も、巡ってくるのだそうです。

校友会便り

3月7日東京23区支部大会がリーガ・ロイヤルホテル東京で開催され、奥島前総長から早稲田とスポーツについて文武両道精神を目指しているとの思い入れのお話があった。講演では昭和49年政経卒、目黒在住、外資系金融機関を経て二宮漁場会長現役の中川 洋氏から氏の生い立ち、碑文谷で魚屋と和食「母庵」(ママ・アン)を設立された魚の鮮度への拘りを拝聴し、引き続き懇親会で23区の支部との交流の場を楽しんだ。

23区支部幹事 大竹一子



会員の広場

『命、病名は急性心筋梗塞』

浅海 敏之(昭和34年 政経)

ふと目が覚めた。胸が苦しい。重たい物が上から圧している痛さ。深呼吸を何度も何度もしてみたが、治らない。

隣のベットの妻に声をかけて起こした。どうしたの?と、スタンドの電気をつけて、あなたの顔真っ白よ。手を見たら、紙のように真っ白で何がおきたのか?どこが悪いのか?心配になった。主治医の石川先生(世田谷在住、息子の友人の父上)に往診をお願いし、心電図の機械をかかえて息子さんと来てくださった。

平成5年3月24日午前2時ごろだった。舌下錠(後でニトロと分かる。)を1錠づつ2回飲んだが、痛みはとれなかった。遠くでサイレンを鳴らした救急車。次第にサイレンの音がおおくなり、止まった。エレベーターが動いた。循環器の良い病院は?と先生。救急隊員は駒沢の第2国立か大橋の東邦ですが。浅海さんどっちがいい?家の者が通うには近い方が良から、大橋をお願いしますと答えた。隊員の方が連絡をとってください。手術室は空いています。スタッフを直ぐに揃えますから、お出ください。と言う返事。先生と妻も同乗してピーポーピーポー、深夜の山手通りを一直線。

直ちにレントゲン、心臓の模型を見ながら、左下の血管がつまり、その先に血液が流れていません。これから右足の付け根の動脈から、カテーテルを入れてバルーン(風船のようなもの)で、ゴミを追い出し、血液を流れるようにしますと説明を受けて手術室へ。急性心筋梗塞と診断された。右足の付け根がチクリと2.3度痛かった。(麻酔で)そのあと細い管が入ったが、苦しいものではなかった。何気圧でいきます、もう一度お願いします、血圧が幾つですと会話が飛び交う。

3時か4時ごろか、目がトロトロ(薬のせいかな、安心したのか)。どの位たったか、浅海さん、通りましたよ。間もなく痛みはとれますよ。

有難うございましたと、言うなり、熱いものがこぼれた。良かった。良かった。助かったんだ。若い男の先生が20-30分止血のため、付け根を押さえて、バンソウコウとテープで足からお腹にグルグルまきに、その上に5キロの砂袋を乗せられ身動きが出来なくなった。

ICUに移された。明日の夕方まで上をむいたまま、寝返りはしてはいけません。動脈を切っているから、出血したら大変ですから。これにはまいった。すぐに腰が痛くなり、看護婦さんに浮き袋やタオルを入れてもらったが、どうにも苦しかった。

朝を迎えて、中村正人先生(東邦病院でカテーテルNO.1)が見えて、手術室が空いていたことで、すぐに処置ができて浅海さんはついています。心臓は不安定で破裂する恐れがありますから、くれぐれも安静第一です。無理をしないでくださいとおどかされた?

ICUは白い上着、帽子、マスクに消毒して家族だ

けが、面会を許された。この日の夜、森喜朗さんの自民党政調会長就任の仲間内のお祝い会が青山ラグビー場クラブハウスで開催され、幹事をおおせつかっていたため、入院が知れ渡り、仲間たちがすぐに飛んできてくださったが、入室が許されずお会いすることが出来なかった。

2日目の夕方、吐き気をもようし、23日の家族のゴルフ帰りに東京園で食べたヤキニクを戻した。お肉はなし、ご飯の米粒は消化されずに、そのままの形だった。胃がぜんぜん働いていないのに驚かされた。3日目からリハビリ。ベッドの前で立つことから始まった。次の日は立ったり座ったり。5日目に一般病室に移動し、一つの山を越えた。50メートルの廊下を看護婦さんの肩を借りて少しずつ歩き、毎日50メートル増えていった。しかし、歩くとすぐにハアハアと息が荒くなる。特に階段の上り下りは苦しかった。今まで通りになるだろうか心配した。

そして3週間お世話になり、いよいよ無事退院を迎えた。その後治した血管がどのように動いているか、再度カテをやり、心臓の動きを撮影することに。またまたチクリと付け根に麻酔。心臓の映像を初めてみた。クラゲのように透きとおっていて、手を握ったり開いたりするように、縮んだり伸びたりしているが、今回梗塞をしたところは収縮もせず、唯、だらっとしたままの状態だった。

生まれて以来、休むことなく動き続けている心臓を見ていると、有難う心臓さん、これからは無理をかけないようにしますね。ごめんなさい。心の中であやまった。自分の体なのに、心臓の血管がこんなに悪くなっていたのが、分からなかった。血圧が高くても、正常に出来ないし、体温だって36度台を保ちたいと思っても、自分の思うようにならない。体は自分のものと思っていたが、自分のもので無いことに気がついた。自分で生きてきたと思っていたが、生かされていると思うようになった。

退院の際、中村先生からいろいろ生活に対する注意事項の説明を受けた。寝る前にコップ1杯の水を飲むこと。心臓に負荷をかけるランニングはしないこと。ウォーキングは1日1万歩を目標に。早朝の心臓は不安定なので、無理をしない。重たいものは負荷がかかるので持たないこと。などなど。退院してから毎日歩いた。まず駒沢公園でゆっくりゆっくりと。日毎に距離も、歩くスピードふえていった。そのうち、歩くだけではつまらないから、ゴルフに行きましよう。年間に100回以上プレイしたのも、デパートに出かけ1階から屋上まで階段を何回も上り下りしたのも、義弟妹のいるニューヨークやシアトルにも、兎に角歩いた。どこに行くにもかならず妻が一緒についてくれた。Ladies firstのアメリカで、荷物を持たない夫、荷物を持ってフーフー言いながら傍にいる妻の二人は白い目で見られ、僕に、おまえは何で持たないのかと何度も注意された。そんな妻が平成13年5月突然ハワイの海で帰らぬ人となってしまった。(次号に続く)

特別寄稿

『早稲田史 発掘』余話

外岡 明 (昭和26年理工)

口頭なら許されても、活字にするととなるとそうは行かない。

当会会報の編集長を仰せつかっていた頃、何時も数名の委員と共に、細心の神経を使って校正していたのが、地名・人名等固有名詞の誤字である。

それでもなお見落としてしまい、許しを乞うた苦しい思い出が何度かある。固有名詞の誤字は、当方の軽率・無知を曝け出しただけで、全く弁解の余地がない。

先日、『早稲田史 発掘』を纏め上げたが、その中に出てくる戦時中の或る工場の社名について疑問が起こった。そしてその正誤の確認作業が、予想外の展開をし、意外な結末となった。

そのプロセスは、次の様なものである。

私は、昭和20年の終戦直前に第一早稲田高等学院に入学した。そして勤労動員命令により8月14日の夜行列車で東京を出発し、翌15日昼頃に指示された愛知県知多半島の工場に着き、正午に終戦を迎えた。

この時の状況を『早稲田史 発掘』に記述したのだが、この原稿をチェックしていた仲間の一人からこの動員先の工場名に疑問が呈せられた。原稿には、『大熊鉄工場』と書いてあるが『大隈鉄工所』ではなかったかと云うのである。他の友人たちは、そのような気もするが確たる記憶がないが、海軍の将校と工場内ですれ違った記憶があるという。

私は、この動員先を言い渡された時には、中学校時代の工場に継続して勤労動員されており、教室には居なかった。だが、入学時に知り合ったばかりの友人から届いた手紙でそれを知った。

それには『…1年生18クラスの内、我々3クラスの動員先は、愛知県知多半島えのきどにある大熊鉄工場と決まり、原則として8月15日に各人現地に集合せよとのこと…』と書かれていた。その手紙は、昭和20年8月7日付のものだが63年後の今日も私の手元にある。

従って私は自信を持って『大熊鉄工場』と記したのである。ところが、その『大熊』の文字が違うのではないかと云うのであるから放置できない事態となった。

そこで先ず、インターネットで『大熊鉄工』を調べた。しかし大阪、群馬、埼玉に数社あるが、どれも中小企業で、かつて軍需産業をやっていた工場とはとても思えない。やはり『大隈鉄工』だったか。念のため『大隈鉄工』も調べてみた。しかしどれも同

様の規模。残るは、東海の仕事機械大手『オークマ株式会社(旧)大隈鉄工』しかない。しかも本社は愛知県である。これに間違いないと更にネットで調べてみると工場は、丹羽郡大口町の本社工場と、江南市の江南工場、それに岐阜県可児市の可児工場の3ヶ所のみで、我々が動員された知多半島には工場が無いのである。

しかし待てよ。63年も前の話である、その後閉鎖した可能性だってある。しからば直接オークマに当たってみるのが手取り早いと考えた。早速(08. 8. 5午前)愛知県丹波郡大口町のオークマ(株)本社に電話を入れた。

「総務部の〇〇でございます」親切そうな女性の声である。「あの～お忙しいところ大変恐縮ですが、一寸伺いたいことがあります、今東京から電話しているのですが…」「ハイ! どんなことでしょうか」「私は太平洋戦争の末期に、知多半島の大熊鉄工場という所へ勤労働員で東京の学校から派遣され、今その当時の記録を作っているのですが、一寸教えて頂きたいことが出てきたのです」「へえ～?」「実は、私共が行った所は、常滑の大熊鉄工場という会社で、大熊の「熊」は、ベアーの「熊」という字なのですが…」間髪を容れず、「あっ! それならうちとは違います。うちは大隈重信の「隈」です」いきなり大隈重信が出てくるとは! ビックリ!! 早稲田とは一言も言っていないのに。当時の事情を説明すると、こちらの熱意が伝わったのか、調べて返事をするとのこと。丁寧に依頼して待つこととする。4、50分後に電話が来た。

「色々調べてみましたが、うちの工場は以前から知多半島には一つもありません。何かの間違いではありませんか」という。更に食い下がる私に手を焼いたのか、「ちょっとお待ち下さい替わりますから」。今度は男性が出て来た、「総務部長の〇〇です」。ついに部長さんのお出ましだ。

一寸緊張して、低姿勢で丁寧に事情を説明した。『私は当時、早稲田大学付属 第一早稲田高等学院に入学したばかりだったが、勤労働員で『愛知県知多郡鬼崎村榎戸』所在の『大熊鉄工場』行きを命ぜられ、8月15日に着いた。しかしその会社が『大熊鉄工場』なのか『大隈鉄工所』なのか、確たる裏づけがとれない。百数十名の学生を受け入れたのであるから、会社の規模から見ても『大隈鉄工所』と考えるのが妥当と思う。しかし、そちらでは「今も昔も知多半島には、うちの工場は無い」とおっしゃる。

では一体、我々が動員された会社は何処へ行ってしまったのか? 全く夢・幻の如し、の思いだ。

当時の記録は大学にもなく、体験した我々が生き

ている内に、どうしても解明して大学史の一齣として記録に残して置きたいのだ」と切々と訴えた。これが通じたのか。

「手持ちの資料では、その様な事実は見当たらないし、当時の人はもう誰も会社には居ない。が、思い当たる古老がおられるので、その方に伺ってみるから一両日時間を頂きたい」と話に乗って来てくれた。期待して待つこととする。すると、早くも翌朝(8. 6)8:50頃電話が架ってきた。

「ありました! ありました!」弾んだ声が受話器に響く。総務部長の声だ。「えっ! 本当ですか。やっぱりありましたか」こちらの血圧も一気に上昇した。部長の話によれば、「大隈鉄工は1941(昭和16)年に、知多半島の常滑に軍需目的の工場を建設し、そこで軍艦の部品を作る工作機械を製造していた」とのことであった。

これは当時工場内で、海軍将校を見かけたという数人の友人の記憶とも符号する。これで我々が動員された工場は『大隈鉄工所』であったことが判明した。そしてこの工場は1951(昭和26)年に閉鎖された。僅か10年間だけの短命な工場だったのだ。我々の足跡は、やっと確認された。これで一件落着。目出度しめでたしなのだが…、

ちょっと待て。少し気になる。大手企業である大隈鉄工は、何故自社の戦時中の歴史を秘したのであるのか? その理由は?…。興味は残る…。が、まあ良い。こちらの問題は解決したのだから…。深追いはすまい。

総務部長さんからは「自分の会社の隠れた歴史を教えられました」と逆に感謝された。

[参考]

前述した昭和20年8月7日付友人からの手紙(便箋2枚)には、動員連絡のほか英語、数学などの授業の進捗状況が書き込まれていた。

ところが、昭和20年4. 1から翌21年3. 31まで一年間は『決戦教育措置要綱』により中・高等教育は完全に中断させられていた時期である。(終戦で解除)

従ってこの手紙は、その様な環境の中にあっても早稲田高等学院では、出席可能な学生のために一部の授業を実施していたことを裏付けるものとなり、『白眉の資料』との評価を得た。

そして昨年末、友人の所蔵する当時の手帖・ガリ版刷りの教科書・入学試験合格通知・写真などと共に『早稲田大学大学史資料センター』に寄贈した。

もう一つ小話を。

昨年3月、クラスメイトの一人が、終戦の日 当日

の記憶を書いたレポートを送って来てくれた。
その中に「…8. 15 昼頃 知多行きの乗車券を新宿の
交通交社にて購入…」とあった。
そこに疑問が生じた。

『交通交社』なのか、『交通公社』なのか。

早速本人に問い合わせたところ「筆の走るままに
書いたので特段の意識は無かった。『公社』かもしれ
ないね」とのこと。単純に、戦時中に『公社』なる
名称があったのだろうか。浅学の身、一寸迷った。

そこで、直ぐに日本交通公社に「終戦時の名称を
教えて欲しい」と電話で問い合わせた。几帳面そう
な声の女子社員が「調べて折り返し電話します」と、
真ともに受け止めてくれた。そして10分ほどで回答
が来た。

「昭和20年9月1日から日本交通公社となっています
」と言う。「あの～私が知りたいのは、それより半
月前の8月15日時点での名称なのですが…」
「あっ、そうでしたか、少々お待ち下さい」…
「お待たせしました。昭和20年8月31日までは、東亜
交通公社と称していました」有難う。納得。
やっぱり『交通公社』で正しかったのだ。

今更遅いが、こんなものはインターネットで調べ
れば、あっという間に分かることだった。
ご参考までに記しておく。

日本交通公社の沿革。

1912 (明治45) 年 ジャパン・ツーリスト・ビューロ(JTB)設立
1934 (昭和09) 年 社団法人 日本旅行協会に改組
1941 (昭和16) 年 社団法人 東亜旅行社に改称
1942 (昭和17) 年 財団法人 東亜旅行社に改組
1943 (昭和18) 年 財団法人 東亜交通公社に改称
1945 (昭和20) 年 財団法人 日本交通公社に改称

以上

記念総会展示への参加作品募集

総会の会場を彩る皆様の作品を募集しています。
絵画、写真、書、俳句、短歌、焼き物その他、趣味作
品を是非出展して下さい。詳細はお問い合わせ下さ
い。連絡先はmeguro-tomonkai@nifty.com です。
具体的な事は、気楽に事務局まで問い合わせ下さい。
お待ちしております。

第10回総会実行委員会

HP 便り

目黒稲門会ホームページ (HP) にはいわゆる掲
示板もあります。『目黒稲門会』で検索してトップ
ページに行き、そこから掲示板をクリックしてお入
りになり、是非ご意見・感想等をお書き下さい。

(小杉 記)

新入会員



小倉 利允 氏 (昭和39年 理工)
趣味：ゴルフ、麻雀、グルメ (東が丘在住)
本年4月にリタイア、生まれも育ちも目黒
区、昨年目黒稲門会を知り、この機会に入
会を申込みました。宜しくお願い致します。



中西 元樹 氏 (平成16年 法)
趣味：サッカー、パソコン (平町在住)
若手会に何度か参加し、先輩方にも親しく
声を掛けて頂きました。これから宜しく
宜しくお願い致します。



森 博紀 氏 (平成9年 政経)
趣味：読書 (大阪市阿倍野区在住)
93年入学時最初の居候先が目黒区の知り
合宅でした。現在大阪に居ますがまた東
京に戻る事が出来れば、心機一転目黒区
で頑張りたいと思っています。

事務局便り

会員の皆様、目黒在住の隣人、知人の校友に
“稲門会ライフの愉しみ”へご勧誘下さい。

稲門会活動に参加する事とは、同じ早稲田の空気
を吸っただけで、どんなに時の違いがあっても何年
もお付き合いをしている友達のごとく気持ちが判り合
える、この感覚こそ稲門会活動の原点といえます。

そして先輩、後輩そして同輩が世界を、日本を憂
いまた喜び、人生や趣味を忌憚なく語る仲間と集う
ことではないでしょうか。

目黒稲門会は、老若男女問わず、母校・早稲田大
学を愛しそこで学んだ事に誇りを持つ人が参加し、
仲間たちで賑やかに語り合い、楽しむ、都会的な地
域の会と言えます。

ご近所、知り合いの目黒在住校友に目黒稲門会へ
の勧誘を心掛けて頂いて、このような場をご存知な
い校友へと輪を広げましょう。

事務局長 吉田博行

編集後記

目黒稲門会は設立10周年記念総会を7月に迎え、
益々校友の輪を広げ、部会活動も初参加の会員も楽
しめる場として活動を深めて来ました。

会報も今号で43号となり、会員皆様の経験に基づ
く身近な情報、母校に関わる新たな調査資料など外
部に発信する価値がある寄稿を織り交ぜて、品質の
ある会報となる編集方針を立てております。

会員皆様の貴重なご経験を是非会報に寄せて頂き、
その経験を尊敬し、共感し、価値を共有したいもの
と希望しております。

(服部 記)